



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

「幸せなこと」

旭町小学校長 道山 正史

先日の「六年生を送る会」の時、1年生が6年生の手を引いて？入場してくる姿を見て、感慨深いものがありました。11か月前に全校遠足で6年生が1年生の手を引いてから、何回6年生は1年生の手を結んであげたことでしょうか。結んだ手を離すときの、互いに顔を見て手を振る仕草は、これまで指導し見守ってきた者にとって、とても強く「幸せ」を感じることでできる光景です。6年生へのアンケートからのクイズで、この学校の一番良いところが、「みんな仲がいいこと」という答えだったことは本当にうれしいことでした。

わたしは今年度の卒業文集に次のように書きました。

「……その期待に、君たちは見事に応えてくれました。ひとのために尽くすこと、そのこと自体が自分の生き方を豊かなものにしてくれるのだと言えるでしょう。優しくそっと手をつないであげている姿、下の子供たちの様子に気をつけながらいっしょに遊んでいる姿、困っている子供に身をかがめながら話を聞いてあげている姿、そのような姿を見るたびに、私はこの旭町小学校の校長で幸せだと思うのでした。……」

このような雰囲気をも根底で支えているのは、さまざまな縦割り班活動のおかげだと私は考えています。日頃から清掃活動や全校遠足、中休みの遊びなど縦割りで行う活動を本校ではとても大切にしています。また、登校班でも上級生が下級生のお世話をする機会が、それこそ毎日あるわけです。こういった様々な異学年交流が本校の穏やかな雰囲気を支えていることは間違いありません。人との関わりに重きを置いた教育活動が、心の安定感、共にいる安心感、人への信頼感、そして感受性の豊かさを育て、子供が生活上の課題を解決する力を生み、これからの社会を生き抜く力を身に付けることができるのだと思います。

3月25日に卒業式を迎える54名の6年生。この1年間、旭町小学校の最高学年として立派に活動をしてきてくれました。6年生は学校の顔なのです。6年生を見ればその学校がわかるといわれています。申し分の無い立派な6年生でした。6年生は旭町小学校の子供で幸せだったと思ってくれるのでしょうか。大人になったときでもこの学校でわたしは幸せだったと思ってくれるのでしょうか。そう思ってもらえるように私達は頑張ってきたつもりですが、これからもそうであってほしいとさらに努力をしていきたいと思っています。

今年度の教育活動にあたり、保護者・地域の皆様、関係諸機関の方々には、ご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。